

## 1 はじめに

福島高等学校は、今年 NIE 実践指定校 2 年目である。本校は、1 学年 3 学級であり、小規模校である。串間市に 1 つしかない高等学校ということで、地域から愛され、つながりを深く持っている学校であるといえる。平成 30 年度は「連携型中高一貫教育校」2 年目であり、学校設定科目として「地域創生学」という授業を設けている。この授業を通して、地域について考え、提案し、発表をしている。また、10 月には県内の高校で初めての「NIE セミナー」を本校で開いた。NIE 教育 2 年間の本校の実践を報告したい。

## 2 学校としての取り組み

- NIE 教育実践者として 2 名の職員が任命されている。
- 6 月の職員会議にて、NIE の説明と実践協力の依頼を行った。
- 「現代社会」「公民理解」「国語」を中心として新聞を活用した授業を展開した。

## 3 実践事例

### A NIE に関する図書委員会による取り組み（小見門真由教諭の実践）

- 目的 普段新聞を読むことのない生徒たちが少しでも新聞に触れる機会を生徒側から作ることで、現代社会に対する興味関心を高めてもらう。
- 内容 多くの生徒に NIE の新聞を利用してもらうため、新聞は図書館で整理保管することにした。ただし、そのようにすると、図書館まで足を運ばないと、新聞を目にすることができなくなってしまう。そこで、図書委員会を中心に工夫をした。各学年の下足室付近に掲示パネルを用意し、新聞の一面記事（3カ所とも違う新聞を利用）を図書委員が用意して毎日掲示する。
- 取組の様子



### B 「現代社会」の授業実践例（坂之下祐輔教諭の実践）

- 新聞スクラップを 2 ステップで実施（週に 1 時間）

#### ① 整理ノート

～記事の内容を矢印などを使って図でまとめ直す。

#### ② 質問力ノート

～「自分の疑問点や質問」を書く。

参考文献：『新聞力 できる人はこう読んでいる』齋藤孝・著 ちくまプリマー新書

● 衆議院議員総選挙における各党・立候補者の比較ポスター（写真左）作成と生徒たちによる模擬選挙（写真右）



※授業の冒頭に時事ネタについて話し合う時間（スピーチやニュースクイズ等）を設定している。

● 実践前後の変化

- ・実践時間が増えるにつれて、記事選びの視点が多様になった。
- ・世の中の動きにわりと興味をもち、目を向けるようになった。
- ・意見を聞くと、何かしらの答えが返ってくるようになった。
- ・自分の進路希望と照らし合わせ、記事を選び、考えるようになった。
- ・自分の意見に説得力が増し、面接試験への準備に生かされた。

● 実践の感想

- ・生徒はこれまでほとんど新聞を読んだことがないようで、最初は読むことに疲れている場面もあったが、徐々に楽しんで取り組むようになった。
- ・新聞に触れる機会があることで、社会の出来事をこれまでより知ることができた。（生徒の感想より）

● 今後の課題

- ・生徒にとって魅力のある記事の選定と活用
- ・適切な評価方法の研究・改善
- ・学校全体としての取り組みの充実と実践の共有
- ・記述する力をどのように向上させるか。
- ・新聞を読みやすい環境の設定

C 「国語」の授業実践例（小見門真由教諭の実践）

● 教科書教材に添った記事の切り抜き

- ①教科書のテーマを反映できる記事を探す。
- ②記事を切り抜き、自分なりの総括をつける。
- ③掲示して相互評価する。

● 新聞作成

- ① 新聞を数紙見比べて、新聞の構成や見出しの付け方を学ぶ。
- ② 何面作成するかを決め、取材班を作る。
- ④ 作成した記事を校正し、写真と組み合わせる。
- ⑤ 回覧して相互評価する。



## D 「公民理解」の授業実践例（坂之下祐輔教諭の実践）

### ● NIE セミナー（10月30日） 「まわしよみ新聞」

#### （1） 新聞スクラップを実施（週に1時間）

##### ①整理ノート

～スクラップノートを作成し、新聞に触れる機会を増やした。

記事を選んだ理由、要約、印象にのこったこと、感想を記入。

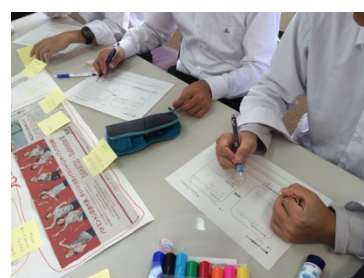
記事の内容を、矢印などを使って図でまとめ直す。

参考文献：『新聞力 できる人はこう読んでいる』齋藤孝・著 ちくまプリマー新書

#### （2） まわしよみ新聞

記事選び→プレゼン→編集を1サイクルで「まわしよみ新聞」を作成した。 参考文献：『まわしよみ新聞をつくろう』陸奥 賢・著 創元社

#### （3） 授業の冒頭に時事ネタについて話し合う時間（スピーチやニュースクイズ等）を設定している。



### ● 実践前後の変化

#### （1）について

- ・それぞれの進路希望に応じた記事選びをするようになった。
- ・コメントも受験（面接、作文等）を意識して記入するようになった。

#### （2）について

- ・回を重ねる毎に完成を意識した記事選びをするようになった。
- ・インプット段階でアウトプットを意識できるようになった。
- ・他者の目を意識することで、紙面の工夫もレベルアップしていった。
- ・新聞に触れ、「社会人」を意識するようになった。

### ● 実践の感想

- ・生徒はこれまでほとんど新聞を読んだことがないようで、最初は読むことに疲れている場面もあったが、徐々に楽しんで取り組むようになった。
- ・新聞に触れる機会があることで、社会の出来事をこれまでより知ることができた。（生徒の感想より）
- ・自分で選んだ記事を他人に紹介することで知識がついたと感じた。（生徒の感想より）
- ・自分と社会とのつながりに気づいた。（生徒の感想より）
- ・授業で新聞に触れてから、家でも少しは読むようになった。（生徒の感想より）
- ・「世の中への関心が以前より高まった」と答えた生徒が約90%。
- ・「新聞に触れたことで、自分は成長したと思う」と答えた生徒が約90%。

● 今後の課題

- ・適切な評価方法の研究・改善
- ・学校全体としての取り組みの充実と実践の共有
- ・記述する力をどのように向上させるか。
- ・新聞を読みやすい環境の設定

E 「国語」の授業実践例（富永千夏教諭の実践）

- 月に1回新聞記事の切り抜き。1人につき、3つの記事を切り抜くように指示。

○ 用途

- ① 学級日誌のテーマ
- ② 学級通信の裏につけた。
- ③ 長期休暇課題・週末課題で感想を書かせる。  
新聞記事を貼って、感想を書く。



(成果と課題)

新聞を身近に感じるが増え、「時事問題」に関する話題が増えた。新聞を活用すると、「アウトプット」の機会が増えるため、文章を書くことへの抵抗が少なくなる。

現時点では、新聞を使った授業は特定の教科に限られている。今後は、より多くの教科で新聞を使った授業を展開していただけるように働きかけたい。